

| | | | | | | | |
|--|--|-----|-----|---------|--|-------|----|
| 授業科目 | 特別研究 Special Study on Degree Thesis | | | 担当教員 | 池永正人 落合知子 木村勝彦 熊谷賢哉 滝知則 田中誠 城前奈美 川上直彦 | | |
| 展開方法 | 演習 | 単位数 | 8単位 | 開講年次・時期 | 1～2年 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業のねらい | | | | | | | |
| <p>修士論文作成のために、指導担当教員が各院生に対して総合的な指導を行う。</p> <p>修士論文作成は、段階を追って計画的に取り組んでいくことが肝要である。指導担当教員の指示に従い、まず適切なテーマを設定するところから始めなくてはならない。そのテーマにかかわる先行研究のサーベイを経て、論文目次の作成へと進み、目次項目をサブテーマとした論考を作成するという手順で修士論文の輪郭を明示していく。その過程で、各院生は修士論文の進捗状況を報告しなければならない。</p> <p>一定の学術水準を保持した修士論文の完成のためには、専攻内中間発表や研究科内中間発表を経て議論を深めながら、研究を継続していく必要がある。発表のしかた、レジュメの作成方法等を含む修士論文作成に必要な研究上の技法を指導する。</p> | | | | | | | |
| 観点 | 学生の授業における到達目標 | | | 評価手段・方法 | | 評価比率 | |
| 関心・意欲 ・態度 | 鮮明な問題意識をもっている。 | | | テーマ設定 | | 25% | |
| 思考・判断 | 的確なデータを収集できる。 | | | データ収集 | | 25% | |
| 技能・表現 | 適切な文章表現ができる。 | | | 文章表現 | | 25% | |
| 知識・理解 | 明快な論理展開ができる。 | | | 論理性 | | 25% | |
| 出席 | | | | | | 受験要件 | |
| 合計 | | | | | | 100% | |
| 評価基準および評価手段・方法の補足説明 | | | | | | | |
| 論文のまとめり具合や完成度を考慮して、総合的に判断する。 | | | | | | | |
| 授業の概要 | | | | | | | |
| <p>授業方法としては、個人指導が中心となるが、指導担当教員の指示に従って、修士論文作成に向けて積極的に取り組む必要がある。修士論文の作成によって、論文の内容もさることながら、口頭発表のしかた、配布資料の作りかた、文章のまとめかたなど、研究者となるにあたって役立つ具体的な技術も身につけていくことになる。</p> | | | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | | | |
| <p>教科書：個別に指示する。</p> <p>参考書：個別に指示する。</p> | | | | | | | |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | | | | | | | |
| 研究に対して真摯にとりくみ、自分自身の問題意識を明確にするよう希望する。 | | | | | | | |